

熊野古道ユビキタス計画

【内容】

国土交通省の事業に、ユビキタス・コミュニケーターを使った案内システムの実証実験が行われています。熊野古道でもそれができないものか。また、市単独では財政的に困難だと思うので、国や県の事業で行ってもらえないものか。

【回答】

ご提案いただいた内容についてですが、国の負担による実証実験と申しましても、市町村においても数千万円の負担が必要とのことで、現在の田辺市の財政事情では非常に厳しい状況にあることをご理解いただきたいと思います。また、実用化されたとしても、かなり普及しない限り、1台数万円から十数万円すると思われることや、こうした技術は携帯電話に吸収されていく可能性が高く、導入リスク（危険度）が極めて大きいと考えます。

さらに、熊野という地域は無機質なサービスより、人と人とのふれ合い、交流があって始めてお客様に喜んでいただけるものと考えます。観光ガイドや語り部、その土地で生活している方が心から「ようこそ田辺・熊野へ」という対応が重要であり、そのための取組を観光協会や地域住民の方々と共に議論することを最優先して参りたいと思います。

なお、IT化の急速な進歩は、様々なお客様に対するサービスツールとして有効であることはご提案のとおりでございます。ICタグやMP3プレイヤー、GPSに携帯電話（QRコード）など、ユビキタス社会に向け多種多様のシステムが開発され普及に取り組まれていることから、市としても研究に努めて参りたいと考えています。

（担当：観光振興課）